農学部図書分館における開館時間延長とその利用実態

農学部図書・紀要編集委員会
農学情報係（信州大学附属図書館農学部分館）

要　約　本学部図書分館においては，1996年度より開館時間を従来の08：30～17：00から08：30～20：00へと，夕刻３時間延長した。これに伴って延長時間内における利用状況を，17：30から19：30の間30分ごとに在館者数を調べることにより，1996，1997の２年度にわたり調査し，結果を年度，前・後期の通常授業期，補講・試験期ごとに，１日利用者数の期間中および曜日別推移，開館時間内利用者数の変化の形でまとめ解析した。また，１日最大利用者数の分布についても調べた。

利用者数の変動は学部学生に対する学年暦に対応する部分が大きく，それら学生が入館・利用者の大きな部分を占めることを示した。そのため，通常期に比し試験期の，ことにその第１週では入館者が急増するが，1997年度では前年度に比し同変化の割合が少なくなり，開館時間延長の定着による図書館利用状況の変化によるものかと推量された。曜日の影響は通常期でもほとんどみられず，試験期の場合はさらに曜日よりも試験時間割の影響が大きいことがうかがわれた。夕刻，時間が遅くなるにつれ在館者数はほぼ一定の割合で減少したが，そのパターンには年度，前・後期，通常期・試験期の間で大きな差はなかった。また，この減少は昼間午後のピーク以降の減少をそのまま引き継ぐ形のものであり，延長期に入っての特別な加速はないように思われた。１日最大利用者数の分析からは，ことに試験期における閲覧室スペースの不足が示唆された。

本学附属図書館利用規程では，昭和58年の規程制定以来，開館時間は平日09：00～17：00，土曜日09：00～12：30とし日曜・祝日等は開館せず，となってきた。もっとも，同規程では，各分館において必要に応じ，開館時間，休館日の変更ができるともしていたため，分館によってはかなり早い時期から平日17：00以降の開館延長を行い，さらに土曜日休校が通例となってからも同日の開館を続けてきたところもあるが，ともかく原則としては上記規程が守られてきた。しかし，やはり夜間・土曜開館に対する希望はどの学部でも，教官，学生を問わず強く，時間外開館に必要な人件費に対する文部省予算配分がなされるようになったこともあって，その実施に踏み切る分館が増えたため，平成７年４月利用規程そのものが平日09：00～20：00，土曜10：00～16：00と改訂された。したがって，新規程に従がえば平日20：00までの開館が原則となり，17：00閉館の場合は分館の事情による開館時間短縮と言うことになる。

こうした流れの中で，本学部図書分館においては平成７年度に７年10月２日～11月30日（通常期）および８年１月16日～２月６日(試験期)の２期にわたり試行として平日開館時間の２時間延長を行い，延長時間帯における分館利用状況を調査したところ，ことに試験期においては，厳冬期にもかかわらず，学部学生を中心に正規時間内に匹敵ないしこれを上回るほどの利用者数がみられ，時間延長に対する要望の強さをあらためて実感した。そのため，翌８年度より分館開館時間を従来の08：30～17：00から３時間延長し，08：30～20：00とすることを学部として決定し，現在に至っている。

延長時間帯における利用状況の調査は試行結果の報告で一応その目的を終了したものの，これが本図書分館における利用状況を具体的に示すデータの一つとして今後とも貴重なものとなり得ると考えられたため，以後も調査を継続することとし，これまでに平成８年度および９年度の２年分のデータを集積した。このうち８年度分調査結果については先に平成９年５月委員会資料，さらに土曜開館に関連しての立案委員会提出資料としてまとめたものの公開まではしなかったため，９年度調査終了を機会に両年度を合わせた結果として紀要の誌面をかりて報告することとした。

土曜日開館についても，平成９年度試行（10年１月～２月）を経て本年４月より本格実施に入っている。この場合も利用状況調査は行っており，さらに

受理日　６月30日
採択日　７月７日

本年度は間欠的ではあるが以前で言う正規開館時間内（08：30～17：00）における利用状況調査も行っているため，これらについても適当な時期に報告する予定である。３者の結果が出そろうことにより，本学部図書分館の利用実態がさらに明確になり，開館時間延長，土曜開館の効果などについても一層確実な評価が出来ると期待される。

調査時期および調査方法

本学図書館の場合，開館日は先に述べた利用規程により４月１日より３月31日までのうち，12月28日～１月４日の冬季休館日，開学記念日および国民の祝日および休日を除く毎週月曜～金曜と定められている。さらに農学部図書分館では，これら開館日のうち授業開講期間および試験，補講期間を20：00までの開館時間延長日とし，それ以外の日は従来と同じ17：00までの開館とするのを原則とするが，予算等の事情が許せばさらに開館時間延長日を多くすることとしている。

平成８年度においては，初年度と言うこともあり，所定の期日のほか年初の後期集中講義期間１週間および後期試験終了後春季休業期間中２週間を開館時間延長日として追加した。したがって，前期は４月８日より７月19日までの15週72日の通常授業期（以下通常期と略）および７月22日より８月２日までの２週10日の前期試験・補講期間（以下試験期と略），後期は９月30日より冬季休業期間（12月21日（土）～１月５日（日））および後期集中講義期間（１月６日～10日，１週５日）をはさみ１月31日までの15週71日の通常期および２月３日より同14日までの２週９日の後期試験期，さらに17日より28日まで２週10日の春季休業期間を合わせ，総計37週，177日が開館時間延長日である。

平成９年度の場合，平成10年２月開催の長野冬季オリンピックとの関連で学年暦がことに後期において大幅に変更され，そのため結局，開館時間延長は，前期４月７日～７月18日の15週73日の通常期および７月22日～31日の２週８日の前期試験期，後期９月22日～12月25日および１月６日～16日の16週70日の通常期および１月19日～30日の２週10日の後期試験期の，総計35週161日にとどまった。

開館時間延長日においては，係員が17：30より19：30まで30分おきに５回館内を見回り，閲覧室，書庫，ロビーおよび印刷室に在室した利用者の数を記録した。係員には，本学部在籍の岐阜大学大学院農学研究科博士課程または本学大学院農学研究科修士課程学生のうちより希望者を募り，事務補として採用した。平成８年度においては，畑　勲（機能食品開発学専攻。博士課程），康　承律（動物発生工学専攻。博士課程），平成９年度においては，畑　勲（同前），山田裕子（動物発生工学専攻，修士課程）の各２名で，年間を通じ交替で任務に当たった。

各日５回の調査で得られた在館者数はそのまま単純に加算し，これを当日の延べ利用者数とした。一方，５回の調査のうち最大であった在館者数は，これを当日利用者数の最大時数とみなし解析に用いた。

調査結果および考察

１．利用者数の年間推移について

1996，1997両年度における年間および前・後期の通常期，試験期の１日当たり平均延べ入館者数を表１にまとめた。延べ入館者数は５回の調査時の在館者数を単純に加算しただけのものであるため，これがそのままその日の利用者の全数でないことは言うまでもない。30分ごとの調査の間に入館し次の調査までの間に退出すれば，その利用はカウントされないし，一方，２時間，３時間と長く在館すれば１人の人間が何人にもカウントされることになる。しかし，正確なデータはないが，見ているところ在館１時間を超える利用者の数はそれほど多いとも思えない反面，30分以内の短時間利用者はかなり多く，ことに教官層，院生ないし高年次学生層でそれが多い。こうしたことを考えると，延べ入館者数が実際の利用者数にくらべ過度に大きな数字を出しているとも思えず，むしろ過小評価の可能性さえ高い。しかし，いずれにしても今回調査ではこうした数字しか得ていないため，以下の各項においてもこれをもって利用状況を推し量る以外仕方がない。

年間を通じての延べ利用者数は通常期では１日平均30ないし40人で，両年度とも後期の方が前期に比し利用者が少ない傾向がみられたが，年度による違いはさほど顕著でない。試験期に入ると利用者数は急激に増加し1996年度では１日平均60人から75人以上に及び通常期の約２倍になった。しかし，1997年度では平均利用者数45～50人と前年度にくらべかなり少なく，ことに前期では通常期に対しての倍率も1.2倍強にとどまった。こうした数字を多いと見るか，少ないとみるか，すなわち開館時間延長の効果をどのように評価するかは，年間を通じての，あるいは開館時間内での利用者数の変化などをみた上で

表１．通年ならびに学期別開館延長時間内利用者数

年　度	学　期	期　間	期 間 内 日　数	期間内　延べ 入館者数合計	１日当たり平均 延べ入館者数
1996	前　期	通常授業期	72	2,758	38.3
		補講・試験期	10	758	75.8
	後　期	通常授業期	71	2,318	32.6
		補講・試験期	9	545	60.6
		その他*	15	375	25.0
	通　年	――――	177	6,754	38.2
1997	前　期	通常授業期	73	2,797	38.3
		補講・試験期	8	379	47.4
	後　期	通常授業期	70	1,839	26.3
		補講・試験期	10	498	49.8
	通　年	――――	161	5,513	34.2

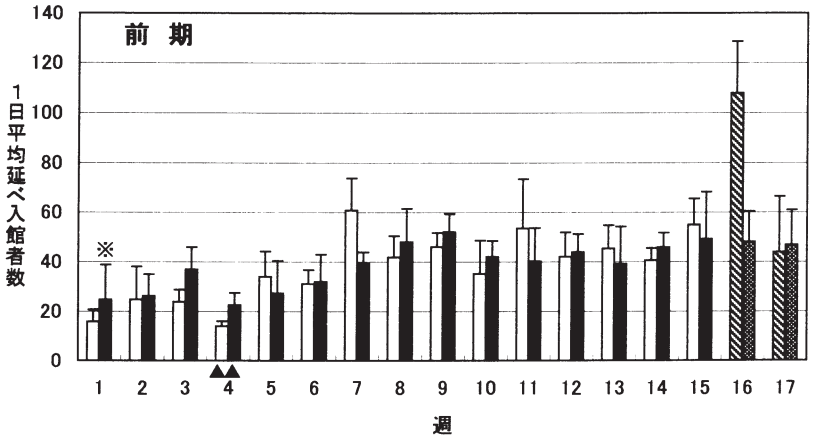
＊ 冬季集中講義期間（５日）および春季休業第１，２週（10日）

後に述べたい。

利用状況の年間推移を週ごとの１日当たり平均延べ入館者数でみたのが図１である。両年度，前・後期ともに学期の初めでは利用者は少ないが，前期では５月の終わりから６月頃にかけて，後期では落葉松祭が終わった頃から利用者数は幾分増加，その後しばらく安定したレベルを保ち，試験期に入る１ないし２週間前から今度は急激に増加するが，試験の第２週には激減し以前のレベルに戻る。一方，年末・年始にかけての冬季休業は利用度にさして大きな影響を与えないようである。こうした動きからみても，利用者数の変動はその大部分が学部学生によるものと推測される。教官，院生の場合は利用者数が学部試験などの影響で変動するとはまず考えられない。また，先にも述べたように彼らは一般に館内への滞留時間が短く，今回調査のやり方ではその利用状況を余り的確にはとらえていないと思うからである。

試験期前から同第１週にかけての利用者数の急増は，1996年度では前・後期とも顕著にみられたが，1997年度になると，ことに前期ではほとんど見られず，後期でもその増加度は前年度に比しかなり小さかった。表１で見られた傾向がより明瞭な形で示されたわけであるが，こうした年度による違いが何に由来するのかはよくわからない。試験内容の変化とは到底思えず，また学生の勉強意欲の低下とも僅か１年での変化だけに考えにくい。また，試験期における利用の増加は図書閲覧，調査など図書館本来の利用のほか，勉強部屋代わりの閲覧室利用もかなり多いと推察されるが，その辺りの状況が急に変わったと言うこともないだろう。やはり本格的な開館時間延長実施の初年度と，それに慣れ20：00までの開館が当たり前になってきた次年度での受け取り方の違い，それによる学生の利用態度の変化の結果とみるのが一番妥当であろう。この点は，同じ調査を本年度も継続して行っているため，その結果が出ればもう少しはっきりしよう。

1996年度の後期においては，通常期，試験期のほか，年初の集中講義期間および春季休業に入ってすぐの２週間の間も調査を継続した。いずれも研究室所属前の学部学生の利用は著しく少ないと思われ，一方，前者においては修士論文の作成，後者には学会準備などが絡み，学部学生以外による利用は逆に多いとみられる時期である。延べ数にして１日平均20～30人の利用者数であり，この辺りの数字が，書斎代わりの閲覧室，ロビー利用でない図書館本来の



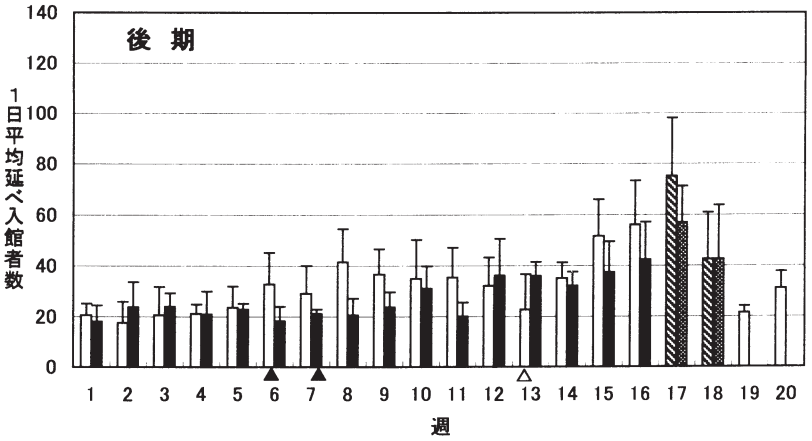


図１．開館延長時間内入館者数の年間推移

各調査日における開館延長時間内延べ入館者数の週別平均値として示す。

□　1996年度前期　通常期：４月８日～７月19日，第１～15週（n＝３～５）
▨　　同　　試験期：７月22日～８月２日，第16，17週（n＝５）
■　1997年度前期　通常期：４月７日～７月18日，第１～15週（n＝４～５）
▩　　同　　試験期：７月22日～７月31日，第16，17週（n＝４）

□　1996年度後期　通常期：９月30日～12月20日，１月13日～１月31日，
第１～12および14～16週（n＝４～５）
□（△）同　　集中講義：１月６日～１月10日，第13週（n＝５）
▨　　同　　試験期：２月３日～２月14日，第17，18週（n＝５）
□　　同　　春季休業期：２月17日～２月28日，第19，20週（n＝５）
■　1997年度後期　通常期：９月22日～12月25日，１月６日～１月16日，
第１～14および15，16週（n＝３～５）
▩　　同　　試験期：１月19日～１月30日，第17，18週（n＝５）

※　平均値＋標準偏差（n：各週日数）
▲　前期においてはゴールデン・ウィーク，後期においては落葉松祭を含む

利用者数ではないかと思われる。

２．曜日別利用者数の変化について

各年度前・後期の通常期および試験期の利用者数を曜日別にまとめたのが図２である。なお，本項以降の解析においては，両年度前・後期とも通常期と試験期のみの結果を扱い，集中講義や春季休業期の値は含めていない。

通常期の利用においては，1997年度後期以外ではいずれでも月曜から火曜ないし水曜にかけて増加，その後週末にかけて減少する傾向がみられたが，その変化度は少なく，曜日による利用度の違いはほとんどないと言ってもよい。1995年度における試行においては金曜における利用者数の落ち込みが目立っ

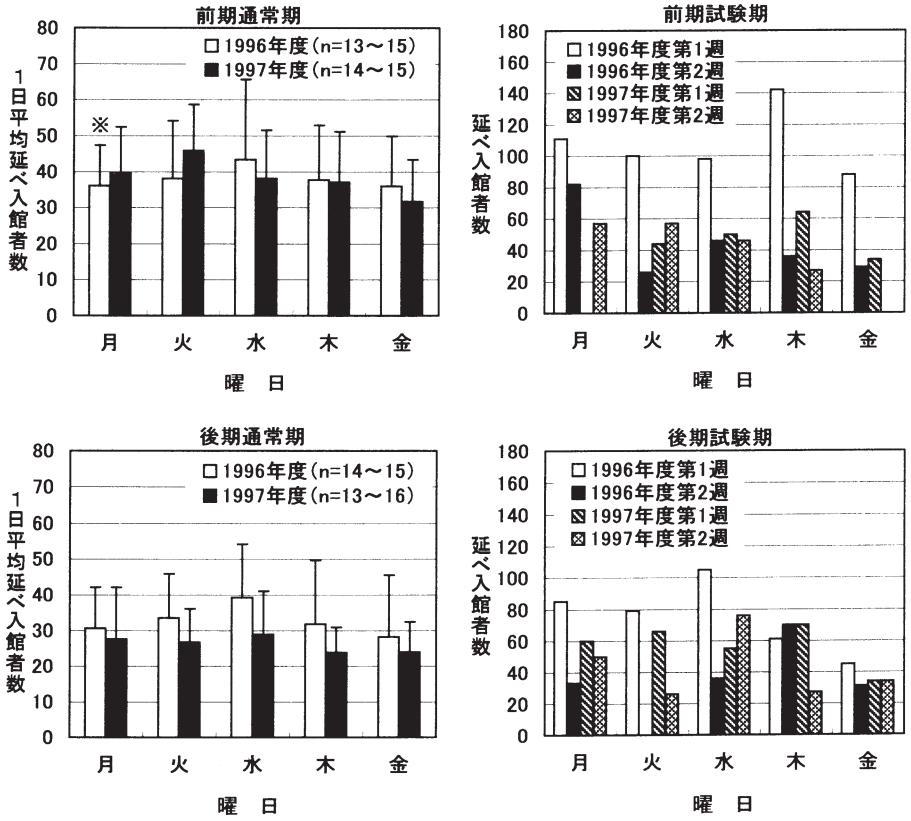


図２．曜日別開館延長時間内入館者数推移

前・後期通常期においては各曜日別に得た１日当たり平均開館延長時間内延べ入館者数，試験期の場合は試験第１，２週の各曜日における延べ入館者数を図示。

※　平均値＋標準偏差（ｎ：日数）

たが，今回調査ではそれほどの変化はみられず，さらに1996年度より1997年度で変化はより少なくなり，同後期では曜日による利用度の違いは全くない状況となった。開館時間延長の定着に伴う変化と思われる。

試験期においては，どの期間でみても変動が激しく一定の傾向がみられない。この場合は曜日の影響などより試験時間割の影響の方がより強く現れるのであろう。

３．開館延長時間内における利用者数の推移について

調査各時刻における在館者数の1日当たり平均値を，前・後期通常期および試験期第１週，第２週に分けて求め，図３に示した。いずれの場合も在館者数平均値は時間の経過に従ってほぼ直線的に減少し，そのパターンは通常期だけでなく試験期でも同様である。ただ，平均値をみる限り結果はこの様であるが，日によって推移は必ずしも一様でなく，第２調査時（18：00）あるいは第３調査時（18：30）にその日の最大在館者数を記録することもしばしばあり，最終調査時刻（19：30）に当日最大値が得られた日も２，３にとどまらない。したがって，どの時刻でも標準偏差で示した在館者数のばらつきはかなり大きい。

1996年度では試験期の利用者がことのほか多かったように，在館者数そのものには年度，時期により差はあったが，開館時間内における変化パターンには年度，時期によるそれほどの違いはみられず，最終調査時点での在館者数は第１回調査時の大体40～50％と言う点で一致していた。以前の２時間延長の試行時では後半18：00以降における急激な減少が目立ったが，今回の場合はとくにそうした現象はなく，開館時間延長の定着に伴って閉館時間を意識した帰り急ぎが減ったと解される。また，表１，図１など，さらに図３でも，1996，1997年度のいずれでも，前期に比し後期で利用者が少ないことは明らかである。エアコンの設置により閲覧室の環境はある程度改善されたものの，書庫，ロビーの寒気は依然そのままであり，あるいはこれが秋から冬と寒冷

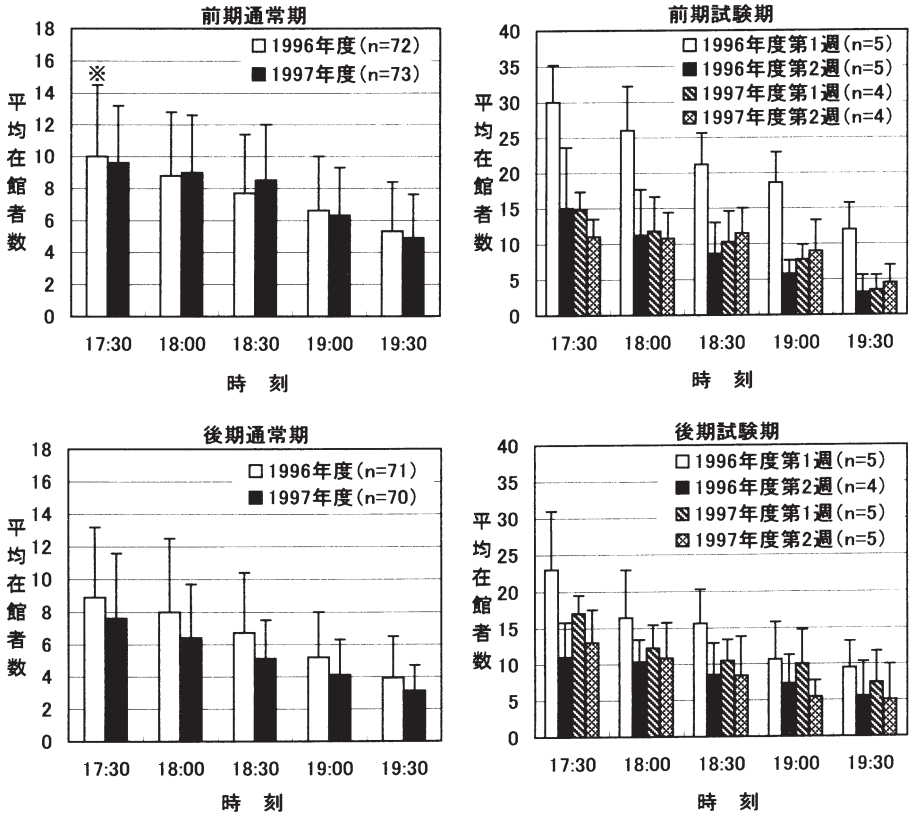


図３．開館延長時間内における在館者数推移

前・後期通常期，試験期を通じ，各調査時刻における在館者数を求める

※　平均値＋標準偏差（ｎ：日数）

期の長い後期での利用低下の原因かと当初思われた。しかし，減少パターンの方では前期，後期の間で大きな違いはなく，とくに寒さのため帰りを急ぐと言うような様子はうかがわれない。原因は必ずしも寒さだけではなさそうである。

表１に示した平均延べ入館者数を５回の調査で割ると調査１回当たりの在館者数は通常期で６～８人，試験期で10～15人になる。本年５月（通常期）と７月（試験期）に各１週間行った，以前の正規開館時間（09：00～17：00）内の同様調査では，１回の調査時の平均在館者数は通常期で10.9人，試験期で26.8人であった。したがって，延長３時間の平均でみればその利用者数は昼間の約半分と言うことになる。しかし，17：30，18：00における在館者数，すなわち延長１時間の間の利用者数でみればこれは昼間のそれと大きな違いはない。まだ昼間時間中の調査結果が少ないため明確ではないが，これまでの結果からみると利用者数は午後次第に増加し，16：00前後，試験期ではややそれより早い時間にピークに達した後，20：00の閉館時までほぼ同じ割合で緩やかに減少していくように思われる。かなり自然な推移であり，現在の状況下では３時間の延長はまず妥当なところであろう。

４．開館時間延長時間内における１日最大利用者数について

閲覧室のスペースなどを考えるには，１日当たり平均入館者数だけをみていても問題は十分把握できない。言うまでもなく，この時は利用者数最大の時の席等の過不足が問題になる。そのため，開館延長時間内各日５回の調査で得られたうち最大の在館者数を当日の最大利用者数とみなし，その分布を調べてみた（図４）。最大時在館者数２と言うのが最小値であり，最大値は1996年度前期試験第１週に記録した36人である。試験期はここでもばらつきが大きく，10人以下の日もあれば25人あるいは30人を超える日もあるが，通常期の場合は前期で10人ないし12人前後，後期で７，８人ないし10人前後と言う日が多い。昼間の場合もまだ例数は少ないが同じような集計をしてみたところ，これより若干多い数字が得られ，通常期の場合は閲覧室・ロビー在室者を合せて20人前後，試験期，ことにその前半では，閲覧室

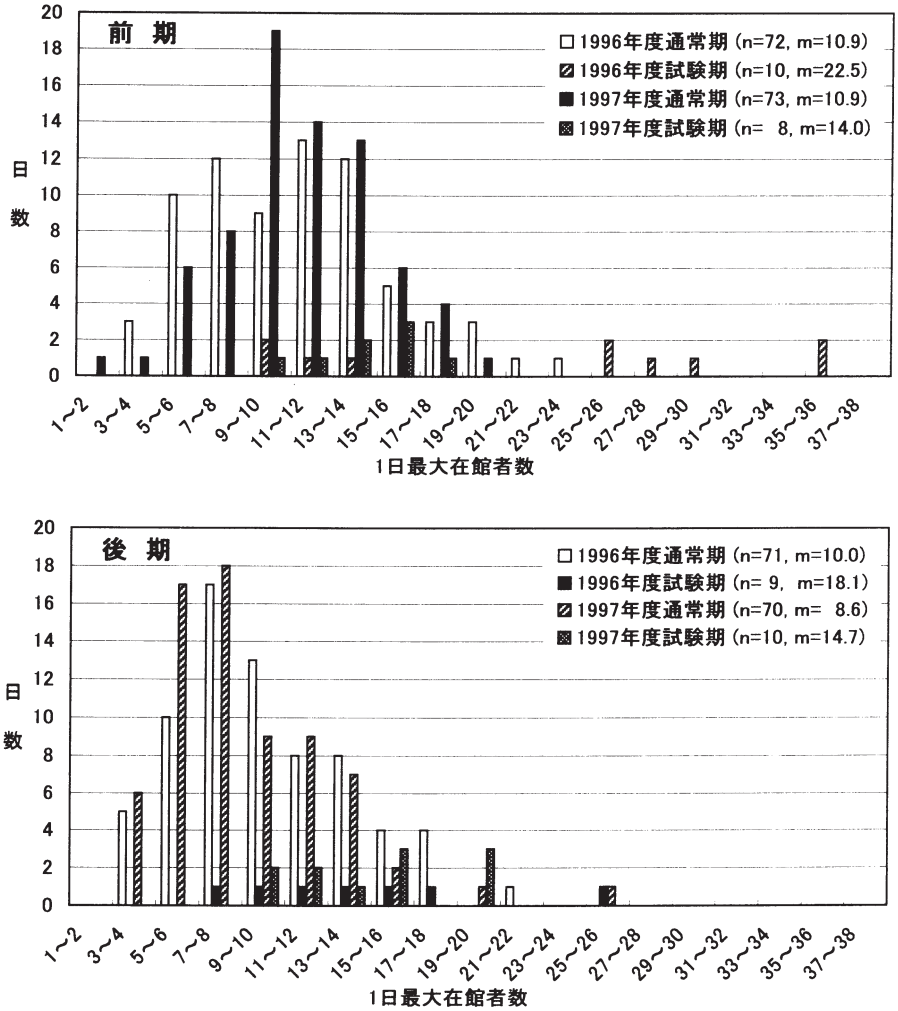


図４．開館延長時間内における１日最大利用者数分布

開館延長時間内各日５回の調査において最大値を示した時の在館者数を当日の最大時在館者数として，その分布を前・後期別に示す。

ｎ：調査日数，ｍ：１日当たり平均最大時在館者数

だけで30人以上，ロビーまで合せると50人を超える日も少なくない。現在の席数は閲覧室で71人，ロビーは８卓16人分であるが，閲覧室はもとより，ロビーでも参考書，資料などを広げて勉強する場合は１人で３人分，少なくとも２人分のスペースは欲しい。試験期において，閲覧室，ロビー等の席取りのため時にトラブルの起こることがある。数字からみても無理ないことと言わざるを得ない。

謝　辞　本調査の実施に当たり調査実務を担当し正確な資料収集にご尽力頂いた岐阜大学大学院農学研究科博士課程（信州大学）学生 康　承律氏（現在大韓民国農林振興庁農業試験場研究員），同 畑　勲氏（現在 在学中），信州大学大学院農学研究科修士課程学生 山田裕子氏（現在 ㈱キッセイ・コムテック社員）に深甚な謝意を表する。

Numbers of Visitors of Faculty Library during Extended Open Time in 1996 and 1997

The Branch Library Committee of Faculty of Agriculture
serving concurrently as the Editorial Board of Journal of the Faculty of Agriculture,
and
The Branch Library Office of Faculty of Agriculture, Shinshu University

Summary

The branch library of Faculty of Agriculture extended its open time by 3 hours in the evening, from 08 : 30～17 : 00 in previous years to 08 : 30～20 : 00, since April of 1996. In order to examine the effect of the extension, numbers of person staying in the library during the period from 17 : 00 to 20 : 00 were checked at 30 min. intervals in 1996 and 1997 school years. The average daily numbers of visitors fluctuated largely along with the school calender for undergraduate students, indicating that a main part of the visitors consisted of students of this category. The number increased greatly during the period of school examination, especially in 1996, but the extent of increase reduced in 1997. No eminent differences were found in the number of visitors among days from Monday to Friday in a week. The number of persons staying in the library decreased at an almost constant rate along the progress of time. Similar check on the visitors during daytime before 17 : 00 showed that the number of visitors attained its peak around 16 : 00 and decreased gradually thereafter. The decrease in visitor number after 17 : 00 was simply considered to be an extension of this tendency. By the check of maximum number of visitors in a day, insufficiency in number of desks and seats in reading room and lobby, especially in the examination period, was infferred.